

ハマフエフキは、放流12日後の10月17日に放流地点付近に一部残留していたが、多くは分散していた。幼魚類調査から、フエフキダイ類の幼魚が海草藻場に生息しているという知見を得たので、放流魚は藻場に定着するだろうと予想されたが、その後の調査では、保護水面内の藻場での定着を確認することができなかった。しかし、放流後約6ヶ月経過した3月13日、保護水面藻場内での刺網漁獲試験で、ハマフエフキに装着した標識が羅網した。おそらく放流魚が網にかかり、標識を残して逃げ去ったのであろう。放流後継続的に藻場に定着していたのか、あるいは、冬場は深みの方へ移動していて水温の上昇してきたこの時期になって再び接岸してきたのか、再捕報告等他の情報がないので今のところ明らかではない。今後の調査に期待したい。

## 5. 底生動物調査

図-1.に示したst.7付近の海草藻場最繁茂部(水深約1m)で底生動物の採集を行なった。今回は、海草類の葉上・葉間を棲み場とする動物を対象とした。採集方法は、一辺25cmの正方形の枠にゴース布の袋をつけた採集具を海草の上からかぶせ地上部を切断し、海底面付近で袋に蓋をして葉ごと採集した。調査期間は、'79年7月よりほぼ2ヶ月毎に実施し'80年6月まで行なった。表-5.にその結果を示した。

表-5. 葉上動物の採集結果

重量は湿重量 g/m<sup>2</sup>

	'79年7月		'79年9月		'79年11月		'80年1月		'80年3月		'80年6月	
	個体数	重量	個体数	重量	個体数	重量	個体数	重量	個体数	重量	個体数	重量
腔腸動物					26.6	-	5.3	-	5.3	-		
渦虫類	5.3	0.1	5.3	0.3	5.3	-	5.3	0.5				
紐形動物					10.6	-						
線虫類			5.3	-					16.0	-		
星虫類	10.6	0.1	5.3	0.1	5.3	-	21.3	0.2	10.6	-		
多毛類	122.7	0.9	112.0	0.1	448.0	0.2	261.3	0.3	309.3	0.3	48.0	0.1
貧毛類	58.7	0.1	16.0	-			26.7	-	21.3	-		
蛭類			5.3	0.1			5.3	0.3			5.3	-
腹足類	26.6	0.7	64.0	5.8	90.7	0.9	149.3	6.5	96.0	1.4	26.6	9.8
斧足類	26.6	0.3	10.6	1.1								
頭足類											5.3	0.2
貝虫類	5.3	-					10.6	-				
アミ類					21.3	-	5.3	-	5.3	-		
クマ類	16.0	-			42.7	-	10.6	-	10.6	-		
タナイス類	21.3	-	5.3	-	16.0	-	5.3	-	16.0	-		
等脚類	21.3	0.2	5.3	-	26.6	-	37.3	0.4	48.0	0.1	16.0	-
端脚類	170.7	0.1	37.3	-	410.7	0.4	261.3	0.3	848.0	0.9	298.7	0.3
長尾類	138.7	0.7	90.7	0.5	80.0	0.2	69.3	0.3	42.7	0.7	90.7	0.9
異尾類			5.3	-	21.3	0.1	42.7	0.2	5.3	-	16.0	0.1
短尾類	53.3	2.7	64.0	3.8	5.3	0.5	32.0	0.2	26.7	3.1	21.3	0.9
クモヒトデ類	16.0	0.5	26.7	-	42.7	-	48.0	0.1	5.3	-	5.3	-
魚類					5.3	0.4			10.6	0.4		
不明	5.3	0.2	5.3	-			16.0	-				
計	698.4	6.6	466.7	12.1	1258.4	2.9	996.9	9.3	1477.0	7.0	533.2	12.4